

人のぬくもりと  
ふれあいが奏でる躍動のまち  
丹波高原文化の郷●京丹波

# 広報 京丹波

KYOTAMBA

NO.67  
5月号

2011年5月13日発行

## 入学祝

期待を胸に  
新たな一歩を  
踏み出す





今月の表紙

4月8日、和知小学校で行われた入学式。晴れやかな笑顔を見せる児童たちの姿は、これから始まる学校生活への期待に満ち溢れていました。(関連記事を12ページに掲載)

# 被災地および避難者への支援を行うために

## 町災害支援対策本部を設置

東日本大震災の被災地および避難者への支援を、府や関係機関と連携しながら総合的に行うために設置した「京丹波町災害支援対策本部」(以下「支援本部」)。福島県内を主として、特に友好町である双葉町の情報収集をはじめ、義援金や支援物資のとりまとめ、職員の現地派遣など、長期間にわたる支援に向けた体制づくりを確立しました。



双葉町の避難所へ水や食料などの支援物資を届ける派遣団(福島県川俣町合宿所)

### 支援本部の体制

寺尾豊爾町長を本部長として、副本部長に副町長と教育長、総括に参事を配置し、各部署を七班に分けて組織。役割分担は次のおりで、町が一丸となって支援できるよう、連携を密にして取り組みを進めています。

#### 総括班(総務課、議会事務局)

全体とりまとめ、関係機関との調整

#### 広報班(企画政策課、監理課)

双葉町との連絡調整、町民のみなさんへの情報提供

#### 義援金担当班(税務課、会計室)

義援金のとりまとめ、送金など

#### 物資等支援班(住民課、瑞穂支所、和知支所)

支援物資の集約窓口、配送手配など

#### ボランティア調整班(保健福祉課)

ボランティアに関する調整

#### 避難者受入班(土木建築課、産業振興課、水道課、医療政策課、病院 診療所)

避難者の受け入れ調整

#### 児童・生徒受入班(教育委員会、幼稚園、子育て支援課、保育所)

児童や生徒の受け入れ調整

### 双葉町を支援する取り組み

被災された双葉町をいち早く支援するために、島中源一副町長を団長とする派遣団を結成し、三月十五日から十七日にかけて緊急支援物資を輸送したのをはじめとして、その後も連絡を取り合いながらさまざまな支援活動に取り組んでいます。



役場などに設置している義援金箱と双葉町への支援募金箱

### 支援物資

避難生活を余儀なくされている中で、必要に応じて不足している物資が提供できるよう「支援物資」を呼びかけています。なお、必要な物資や量などを確認しながらお知らせする必要がありますので、ホームページとケーブルテレビの文字放送を利用して情報をお伝えします。

### 復興支援募金

東日本大震災への義援金と合わせて、被災された双葉町のみなさんに活用していただくための「復興支援募金」を募っています。支援募金箱は、義援金箱と同じく次の場所に設置しています。

役場本庁／瑞穂支所／和知支所／町健康管理センター／瑞穂保健福祉センター／京丹波町病院／和知診療所／町社会福祉協議会和知支所

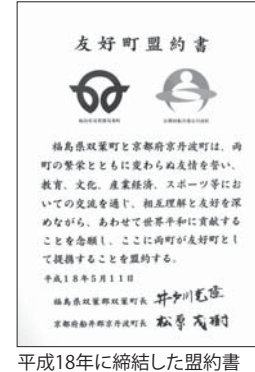
未曾有の大災害からの復興を目指し、「復興支援募金」と「支援物資」を必要に応じて募っていますので、町民のみなさんのご理解とご協力をお願いします。

## No.67 CONTENTS

- 2 被災地および避難者への支援を行うために町災害支援対策本部を設置
- 4 町公共事業再評価審査委員会の審査結果は「町道235号線の事業は町の対応方針案(継続)が妥当」
- 6 人の動き
- 8 平成23年4月から献血の基準が一部改正されました
- 9 Dr's Message いきいき健康術
- 10 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2011
  - 地域防災を担う消防団に36人が入団
  - 消防団入隊団及び役員任命式
  - 人形が伝える思いやりの心
  - 一ふるさと人形展
  - キャッチフレーズで伝える地域の特色
  - 一北部振興会が集落PR看板を設置
  - 名称を改めて新体制でスタート
  - 一女性の会総会
  - 観光協会の設立を目指して
  - 一観光協会設立委員会が発足
  - 気持ちを新たに学校生活がスタート
  - 一入学・入園式
  - 瑞穂小学校とみずほ保育所の誕生を祝う
  - 一開校式・開所式

### 双葉町との友好町提携

双葉町との交流は、昭和四十五年の大阪万国博覧会でのテレビ対談をきっかけに始まり、平成六年に旧瑞穂町が「姉妹町提携」の盟約を締結。そして、平成十八年五月十一日に京丹波町として改めて「友好町盟約」を締結し、さまざまな分野で交流を深め、両町の発展につなげることを確認しました。



### 蒲生野中学生が教育長に義援金を託す

四月十二日、蒲生野中学校の生徒会役員が教育委員会を訪れ、朝子照夫教育長に双葉町への義援金を手渡しました。



義援金を手渡す長澤生徒会長(教育委員会・本庄)

【問】京丹波町災害支援対策本部総括班(総務課) ☎82-0200  
 \* 義援金に関しては 税務課 ☎82-3802 \* 支援物資に関しては 住民課 ☎82-3803

# 町公共事業再評価審査委員会の審査結果は 「町道235号線の事業は 町の対応方針案(継続)が妥当」

京丹波町公共事業再評価審査委員会(以下「委員会」)が3月14日、依頼を受けていた「社会資本整備総合交付金事業(町道235号線)の再評価」について、寺尾豊爾町長に審査意見書を提出。意見書を受け、寺尾町長は「審査意見に基づき、町の方針を早急に決定し対応してまいります」と話し、3月23日には対応方針を委員会に報告しました。



寺尾町長に意見書を提出する片山委員長(役場町長室・蒲生)

援とからめて、課題の解消および南丹市へのアクセス向上を図ることを目的に整備を進めています。事業経過としては、平成十三年度に事業採択を受け、平成十六年度に工事に着手。完成予定は平成二十四年度で、平成二十二年年度末の進捗率は五七%となっております。

## 公共事業の再評価とは

公共事業の効率的な執行および実施過程の透明性を図る観点から、社会経済情勢の変化などを踏まえて改めて検証するために、「予算化されているが、五年間経過した後も未着手の事業」「継続中で十年間を経過した事業」などを対象に委員会が審査し、町長に意見します。町長は、委員会の意見を尊重し、事業の継続、休止、または中止の対応方針を決定し、委員会への報告および公表をします。

## 三回の会合を開催し 審査意見書を提出

委員会では、一月十七日の初会合を皮切りに、二月十四日に現地調査、二月二十八日に最終会合を開催し、対象事業についての審査を実施。三月十四日には、片山委員長が寺尾町長に審査意見書を手渡しました。

なお、審査意見書の主な内容は、次のとおりです。

### 【審査結果】

社会資本整備総合交付金事業の再評価については、委員会に提出された資料や現地調査に

## 公共事業再評価審査委員

	委員名	役職等
委員長	片山俊明	行政書士
副委員長	隅山國夫	町区長会理事
委員	上田次雄	南丹船井交通安全協会京丹波支部長
	梅原好範	町消防団長
	白石克孝	龍谷大学法学部教授
	田畑修一	町商工会長
	西村恵美子	町婦人会長
	細井義数	畑川ダム対策協議会長
	吉田 昭	町区長会副会長

※「役職等」は平成23年3月末時点のものです。

## 事業概要

- 延長 1.84km
- 幅員 7m
- 車線数 2車線
- 設計速度 30km/h
- 整備場所 下山茨堂～下山田渡  
※「位置図」参照
- 事業費 約6億5,000万円
- 工期 平成13年度～24年度



整備が進められている町道235号線(下山地内)

おける説明などに基づき、適切に事業が進められており、現計画を継続とする町の対応方針(案)は妥当であると判断します。

### 【意見】

本路線は、国道二七号バイパスから南丹市に至る路線であるが、現状は幅員狭小で大型車との離合が困難であることに加え、未舗装である。また、畑川ダム建設により水没することから、機能回復としての付け替えと拡幅改良が併せて実施されており、利便性・安全性の向上、さ

## 町道二三五号線の概況

国道二七号下山バイパスから市道中道新田線(南丹市)へ通じる全長約一・八キロの生活道路。現況は幅員四メートルの未舗装であるため、大型車の離合が困難なことや通行の際の安全性確保などに課題があります。また、畑川ダム供用開始後に水没することから、付け替え道路としても位置付けられています。

このようなことから、畑川ダム建設事業への支



## 審査意見を受けての 対応方針

審査意見を受け、町は今後の対応方針を「平成二十四年度完成を目指して事業を継続する」とし、次の点に留意して事業を進めるよう、委員会へ報告しました。

### 事業実施に当たっての留意事項

- ① 事業の推進に当たっては、町民に対し十分な啓発を行い、工期内完成に向け、事業効果の早期実現に努める。
- ② 安全かつ環境に配慮し、適切に対応する。
- ③ 今後の事業の進捗に合わせた事業費の精査やコスト縮減に努める。



# 平成23年4月から 献血の基準が一部 改正されました



## 年齢条件の変更

- 400mL献血の対象年齢が、**男性のみ17歳に引き下げ**られました。
  - 血小板成分献血の対象年齢が、**男性のみ69歳まで引き上げ**られました。
- ※血小板成分献血は献血ルームでのみ実施しています。

## 血色素量の変更

- 200mL献血の下限値が、**男性のみ12.5g/dLに引き上げ**られました。
  - 400mL献血の下限値が、**男性のみ13g/dLに引き上げ**られました。
- ※献血前の事前検査が、比重液による検査から血色素量測定に変わりました。



【用語説明】  
血色素量(ヘモグロビン濃度)  
…血液中の赤血球の濃さ

採血基準の変更点  
(全血献血)

	全血献血	
	200mL献血	400mL献血
年齢	16歳～69歳※	<u>男性17歳～69歳※</u> 女性18歳～69歳※
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	50kg以上
最高血圧	90mmHg以上	
血色素量	<u>男性12.5g/dL以上</u> 女性12g/dL以上	<u>男性13g/dL以上</u> 女性12.5g/dL以上

※65歳～69歳までの方は、60歳～64歳までの間に献血の経験がある方に限ります。

## 問診票の質問事項が「14項目」から「23項目」になりました

### 《主な変更箇所》

- 献血に禁止されている薬の使用について、質問を増やしました。
- 既往歴を確認する質問を3項目に分けました。
- 海外渡航歴を確認する質問を5項目に分けました。
- エイズ感染リスクを判断する質問について、記載を変更しました。

問診は、献血いただいた方の健康を守るとともに、血液を必要としている患者をウイルスなどの感染から守るために行っています。ご理解とご協力をお願いします。



【問】京都府福知山赤十字血液センター ☎0773-27-6630

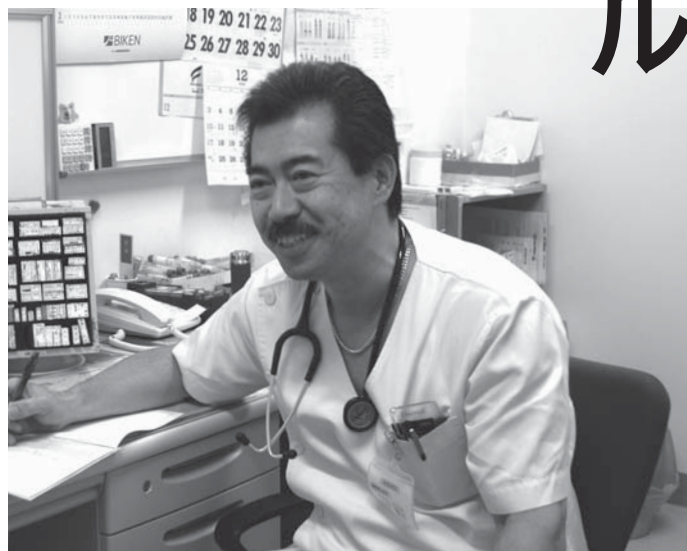
# 『コレステロール コントロール』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。  
今回の担当は京丹波町病院の副院長 垣田秀治先生。健診などの検査項目の一つである「コレステロール」についてのお話です。

**健** 診などでコレステロールや中性脂肪などを測定されたことがあると思いますが、結果を見たとき、最近では総コレステロールという項目がなくなっていることに気付かれたでしょうか。

脂質の検査では、以前は総コレステロール、中性脂肪、HDLコレステロールの三項目が測定されていました。ここ数年は中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロールの三項目に変更されています。これは総コレステロールの中に、善玉コレステロールであるHDLコレステロールと、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールのどちらも含まれていることから、総コレステロールの数値だけで判断しないようにするためです。

「わたしはコレステロールが高いから」という会話をしがちですが、これからは善玉か悪玉のどちらが多いのかを、しっかり確認することが必要です。そして、善玉コレステロールが多いのであれば、いくら総コレステロールの数値が高くても治療の必要はない場合が多いということも知っておいてください。



かきた ひではる  
垣田秀治副院長(京丹波町病院)  
[内科一般・糖尿病・代謝]

## 悪玉コレステロールを下げるには

方法としては、「適度な運動」「野菜や背中の青い魚をしっかりと食べる」「肥満にならないように注意する」などがあります。当たり前のことのように思えますが、それをしてしっかりと継続することは結構難しいことです。

悪玉コレステロールや中性脂肪は動脈硬化の大きな原因となります。日常生活の中で自分の健康をコントロールしていくことは可能なことです。がんばって生活習慣病を予防し、そして克服していきましょう。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。

☎86-02220

Dr's Message

# いきいき健康術 第45回

# 地域防災を担う消防団に三十六人が入団

## 消防団入退団及び役員任命式

平成二十三年度京丹波町消防団入退団及び役員任命式が四月一日、蒲生野中学校体育館で行われ、消防団員ら約百五十人が出席しました。

式では、寺尾豊爾町長が式辞を述べた後、梅原好範団長が本年度の部長と班長、入団者に任命書を交付。続いて、新入団員代表の太田周人さん(富田)による入団者宣誓をはじめ、平成二十二年表彰の伝達や退団者への辞令交付などが行われました。

## 和知支団

- 竹中真介▼田井慎也
- ▼木下悠吾▼片山剛士
- ▼坂優▼堀川泰雅▼正田一
- ▼中西重清

## 退団者

## 丹波支団

- 中西健二▼下口卓郎
- ▼岩崎利紀▼田端泰三
- ▼北村文幸▼村山充
- ▼松村昌幸▼山内弘文
- ▼安村英展▼本郷健一
- ▼小森博之▼鈴木基司
- ▼山内和秋▼藤田房之
- ▼細井政広▼山内勝則
- ▼片山文樹

## 瑞穂支団

- 保田志信▼田中努▼西山久司



入団者宣誓をする太田さん(蒲生野中学校・蒲生)

## 和知支団

- 出野義明▼藤井嘉之▼野間隆
- ▼藤田寿一▼梅原一光
- ▼片山幸男▼江本博司
- ▼瀨野忠義▼萩尾尚明

## 京都府知事表彰

永年勤続功労章

大田有次(支団長)

## 財団法人日本消防協会表彰

功績章 川島勇人(支団長)

精績章 坂本信幸(分団長)

勤続章 上林茂治▼樋口敏秀

【丹波地方消防連絡協議会長表彰】

坂部俊光(部長)▼井上仁悟(同)

山本守(同)▼古田祐(同)

田中義則(同)▼橋野茂(同)

山藤勲(同)▼山田泰行(同)

野口貴史(同)▼榎川篤(同)

田畑佳喜(同)

※平成二十二年表彰のため、当時の役職名です。

# 人形が伝える 思いやりの心

## ふるさと人形展

四月一日から五日までの五日間、第二十回ふるさと人形展(町教育委員会、町ふるさと体験資料館運営委員会主催)がみずほ人形の家「みやび」で開催され、期間を通じて延七百二十九人が来場しました。

同人形展では、昔なつかしい土人形をはじめ、節句の祝いに贈られる雛人形や五月人形など、町内外から寄贈された約二千体の人形がパランスよく並べられ、訪れた人々を楽しませました。また、期間中には、質美地区の地元有志や町共同作業所のみなさんなどが模擬店を出店し、人形展を盛り上げました。

同館運営委員長の北村始子さんは、「どの人形を見ても、かわいらしい顔をしているので、その顔を見て心を和ませていただき、思いやりの心を育んでほしいと思います」と話しました。



人形を見つめる来場者(みずほ人形の家「みやび」・質美)

# キヤッチフレーズで伝える地域の特徴

## 北部振興会が集落PR看板を設置

北部振興会(江本正昭会長)が三月二十六日、地域に愛着を持つとともに地域をPRするための看板(縦七十五センチ、横百二十センチ)を、参画する集落ごとに一箇所(計五箇所)設置しました。

この取り組みは、豊かな自然と多くの観光資源を有する地域の特徴を伝えるために、府の「共に育む命の里事業」を活用して実施。看板には、「和知ほくぶ長老の郷」の文字と「集落名」、それぞれの集落で考えられたキヤッチフレーズ(「蛸とびかう村さ来の里(西河



立て看板を設置する会員(西河内地内)

内)、「文化の薫り豊かな交流の里(下栗野)」、「悠久の歴史が育む神佛の里(細谷)」、「絆で心むすぶ川合の里(上栗野)」、「水車で心つなぐ仏の住む里(仏主)」が記され、訪れる人たちへの情報発信の一つとして役立てられています。

# 観光協会の設立を目指して

## 観光協会設立委員会が発足

京丹波町観光協会設立委員会が四月十九日に発足し、役員議員控室で初会合を開催しました。

同委員会は、町の観光振興の中心的役割を担う観光協会を設立することを目的に、各種団体の推薦を受けた委員や学識経験者ら九人で組織。会議では、寺尾豊爾町長が委員一人ひとりに委嘱状を交付した後、正副委員長を選出し、設立に向けた課題などについて話し合うとともに、発足予定を七月一日として準備を進めることが確認されました。

## 観光協会設立委員 ※敬称略

- 委員長 岡本久(丹波地域開発(株))
- 副委員長 西山芳明
- 委員(グリーンランドみずほ(株)) (タリ) 岩田恵(町議会議員)
- 湊嘉秀(町商工会)
- 中西英夫
- (財)和知ふるさと振興センター
- 太田裕
- (府立丹波自然運動公園協力会)
- 森隆
- (NPO法人丹波みらい研究会)
- 谷口忍(学識経験者)
- 山鳥喜子(同)

# 名称を改めて新体制でスタート

## 女性の会総会

京丹波町女性の会が四月十六日、町中央公民館で総会を開催

し、会員六十八人が出席しました。同会は、京丹波町婦人会を改称した組織で、平成二十三年四



あいさつをする寺谷会長(町中央公民館・蒲生)

月一日から会員百四十六人で新たにスタート。総会では、役員選出をはじめ、二十二年度事業と決算の報告、二十三年度事業計画と予算などを審議し、最後に新会長の寺谷すま子さんが「みなさんの知恵と力、そして女性のパワーをいただいてがんばっていきます」と意気込みを込めてあいさつしました。なお、新役員については、「人の動き(七ページ)」に掲載しています。



課題などを話し合う委員(役場議員控室・蒲生)

わたしたちの町	
人口	16,519(-10)
男	7,812(+6)
女	8,707(-16)
世帯数	6,432(+4)
5月1日現在/( )は前月比	

## 職員の配置 (敬称略)

- 異動(五月一日付)
- 西山由里(京丹波町病院看護主任)
- 小川和代(和知診療所看護主任)
- 川勝里美(京丹波町病院看護師)
- 上田ひとみ(和知診療所看護師)

## 気持ち新たに学校生活がスタート

### ■入学・入園式

四月十一日、町立中学校（蒲生野、瑞穂、和知）の入学式が各校で行われ、在校生や保護者らが見守る中、新入生百四十一人が新たに中学校生活をスタートしました。

蒲生野中学校では、在校生代表の長澤慶さんが「中学校生活で新しい自分を作っていけるよう、一緒にがんばりましょう」と歓迎の言葉を述べた後、新入生代表の宮田菜里さんが「夢に向かって、一日一日を悔いのないように過ごすとともに、今日の感動を忘れず、蒲生野中学校の新たな歴史を作る生徒となることを誓います」と力強く決意を述べました。



新入生を代表して宣誓する宮田さん（蒲生野中学校・蒲生）

四月八日には町立小学校（竹野、丹波ひかり、下山、瑞穂、和知）で入学式が行われ、計百人が入学。四月七日には町立保育所（みずほ、和知、上豊田、下山分園）で計八十五人、四月十二日には須知幼稚園で二十人が入園しました。



入学の喜びを込めて歌う新入生（瑞穂小学校・橋爪）



名前を呼ばれて大きな声で返事をする児童（みずほ保育所・和田）

## 瑞穂小学校とみずほ保育所の誕生を祝う

### ■開校式・開所式

新たな学び舎として誕生した瑞穂小学校の開校式が四月六日、同校体育館で行われ、児童や地元住民ら約三百六十人が出席しました。

式典では、十倉一昭教育委員長から井尻常夫校長への校旗授与をはじめ、寺尾町長の式辞や十倉教育委員長の告辞、井尻校長のあいさつなどが行われた後、児童たちが全員合唱をして新しい校歌を披露。続いて、参加者全員で万歳三唱をし、新たな歴史の幕開けを祝いました。

また、四月七日には、園児や保護者らが出席する中、「みずほ保



校旗を披露する井尻校長（左）（瑞穂小学校・橋爪）

育所開所式」を実施。式典では、寺尾町長の式辞をはじめ、園児たちによる合唱や、五歳児と来賓によるくす玉割りなどが行われ、新しくなった保育所の出発を多くの人たちで祝いました。



開所を祝してくす玉を割る児童ら（みずほ保育所・和田）

### 編集後記

入学式を取材させていただきましたが、夢と希望に胸をふくらませる新入生の姿を見るととてもうれしい気持ちになり、編集子であることに喜びを感じるとともに、息子が成長した姿を想像し感慨深いものがありました。これからも取材を通じて味わうことができる感動を大切にしながら、広報編集に励みたいと思います。（K）